

機関番号：32638

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20520241

研究課題名(和文)

エリザベス朝における伊英文化の邂逅に出版が果たした役割についての実証的研究

研究課題名(英文)

England's Encounter with Italian Culture during the Reign of Elizabeth I

研究代表者

富田 爽子 (TOMITA SOKO)

拓殖大学・工学部・教授

研究者番号：30197925

研究成果の概要(和文):

本研究では1560年から1601年の間に John Wolfe がその出版に関わった書籍474冊のデータ収集と分析を行なった。データ収集に関しては、日本で収集可能なものは研究代表者と研究分担者と共同で行い、海外での収集は英国・イタリアで研究代表者が行った。エリザベス朝の作家、翻訳者、出版業者そしてパトロンや被献呈者、書物収集家などについての正確で詳細なデータベースを共同で作成した。

研究成果の概要(英文):

This project investigated 474 books which John Wolfe, one of the most active printers of the Elizabethan England, has dealt with between 1560 and 1601. While Tomita and Mizuno worked together collecting and compiling materials which were available in Japan, Tomita was responsible for researching and collecting materials in England and Italy. We made a database on the books whose publication Wolfe has taken a part in some way or other. It is to be published together with their bibliographical descriptions in future.

交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野:人文学

科研費の分科・細目:文学・英米・英語圏文学

キーワード:書誌学・文献学・英米文学・エリザベス朝・出版・ジョン ウォルフ・イタリア

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は長年、エリザベス朝においてイタリア文化がどのようにして英国文化に溶け込み、英国人のアイデンティティー確立に寄与したか、そして前代未聞のエリザベス朝演劇の開花を促したかを研究しており、平成18年、これを論文に纏めて英国バーミンガム大学シェイクスピア研究所に提出し、高い評価を得て、文学博士号を授

与された。エリザベス朝におけるイタリアの影響は否定することの出来ない事実であり、前世紀を通じて多くの研究者がさまざまな角度から議論してきた。20世紀初頭に刊行された Mary Augusta Scott の記念碑的著作、*Elizabethan Translations from the Italian* (Boston: Houghton Mifflin, 1916) を皮切りに、Frances Yates, F.O. Matthiessen, Mario Praz, M.J. Levith, Louise

George Club, Leo Salinger など、そのアプローチの方法も多岐にわたる。特に Club の研究以降はイタリアから英国への「影響 (influence)」と捉えられていたものが「邂逅 (encounter)」と認識されるようになった。この認識に基づいて intertextual studies が批評の中心となり、従来の source studies に取って代わった。Intertextual studies は実り豊かな成果をあげているが、このアプローチは、その一方で扱う素材の厳密な位置づけを今まで以上に必要とする。素材を当時の環境に正しく置いて考察することがますます不可欠となってきている。

2. 研究の目的

エリザベス朝でイタリア書籍の出版に携わった印刷業者は、当然のことながら、イタリア書籍以外の書物も出版している。彼らの出版活動全体の中で、イタリア書籍がどのような位置づけ・方針のもとで印刷されたかを探る。申請者の今までの研究により、1600 年ごろのロンドン在住の印刷業者 175 名の中で、何らかの形でイタリア関係の書籍出版に携わった印刷業者は 135 名いることが判明した。その内実際に印刷を行ったのは 68 名である。この中でイタリア書籍の出版物が最も多く、且つ時代の流れに敏感に反応した印刷業者 John Wolfe を中心にその出版活動の全容と、当時の英国におけるイタリア文化の浸透に果たした印刷業者の役割を明らかにする。

3. 研究の方法

English Short Title Catalogue (STC) は 1473 年から 1800 年までの間に英国で出版された書籍 46 万冊を網羅しているが、この中から John Wolfe が関与した書籍約 450 冊を抽出し、その書籍についてのデータベースを作成する。

4. 研究成果

(1) データベース

データベースはほぼ完成した。出版するまでには至っていないが、このデータベースを元に、各書物の書誌学的記述を完成させる予定である。

John Wolfe が英国で出版活動を行なったのは 1560 年から 1601 年であり、Wolfe が何らかの役割で出版に係った書籍数は時代順に見ると以下のとおりである。

1560 年	1 冊
1579 年	2 冊
1581 年	4 冊
1582 年	13 冊
1583 年	15 冊
1584 年	13 冊
1585 年	15 冊

1586 年	20 冊
1587 年	24 冊
1588 年	36 冊
1588/89 年	1 冊
1589 年	49 冊
1590 年	54 冊
1591 年	52 冊
1592 年	51 冊
1593 年	33 冊
1594 年	7 冊
1595 年	12 冊
1596 年	5 冊
1597 年	6 冊
1597/98	1 冊
1598 年	12 冊
1599 年	32 冊
1600 年	12 冊
1601 年	4 冊
計	474 冊

データベースにはこの 474 冊について次の事項を含む。

- ① 出版年
- ② 書物の版の種類: 初版か再版かあるいは刷の区別
- ③ 著者名
- ④ 翻訳者名
- ⑤ 編集者名
- ⑥ 印刷者名: John Wolfe 以外の場合
- ⑦ 発行者名: John Wolfe 以外の場合
- ⑧ STC 番号
- ⑨ ジャンル:
- ⑩ John Wolfe の関与: 印刷、出版、費用分担、出版登録など、賞品としての書籍との関わり合い方
- ⑪ 書誌学的記述の記載番号

(2) 書誌学的記述

これらのデータをもとにして、書誌学的記述を試みた。その内容は以下のとおりである。

① 書誌学的記述の記載番号

John Wolfe が関係した書籍を原則として出版の年代順に列挙し、同一年の中では著者または翻訳者名、あるいは題名のアルファベット順に記載した。個々の作品に記載番号を与え、再版、再刷には b, c などのサフィックスをつけてある。ひとつの作品について別人による複数の英訳が出版されている場合は、同一記載番号の別サフィックスで対応したが、翻訳言語が異なる場合には (例: ラテン語訳)、独立した記載番号を与えた。また、該当作品が 1601 年以降更に再版を重ねている場合は注釈のところで言及した。この記載番号は、本カタログの全ての部署に記載され、あらゆる角度から、さまざまな情報にアクセスできるようにした。各ページにはこの記載番号と

STCに基づいた出版年の見出しをつけてある。

② 簡略書名

スペースの関係から、題名を全て記述することは出来ないで、原則として STC に記載されている題名の最初の数語を簡略書名として採用している。しかしキーワードが含まれていない場合は、キーワードを優先して採用した。スペリングは原則として STC の綴りを採用したが、i, j, u, v は現代綴りに直した。冠詞、代名詞、接続詞を除いて、最初の文字は大文字とした。

③ ジャンル

ジャンルは特に重視した。Wolfe の関心と Wolfe の本を必要とした英国の読者の傾向を探るのに重要と考えたからである。各作品のジャンルはカタログの各項目の最上段に、簡略書名に並べて記載してある。ジャンルというのはある意味では根拠のない分類であり、全面的な是認を得ることは難しい。本研究では Wolfe の手がけた書物を大きく 2 つのジャンルに分けた。ひとつは抽象的思考に関するもの(例:文学、戯曲など)、もうひとつはより生活に密着した実用的なもの(例:言語、ハンドブック、マニュアル、旅行記、歴史書と政治、法律、宗教など)である。また、外国語(例:ラテン語、イタリア語など)で出版された書物も本カタログに含めたが、それらの本も上記の 2 つのジャンルに再分類してある。

④ 出版年

書物の表紙に出版年が印刷されていない場合は、出版年を[] で囲って区別した。

⑤ 版の特定

カタログでは該当書が初版であるか、再版、または再刷であるかの区別を明記した。版の扱いは基本的には STC に従っているが、作品が Part 1, Part 2, Part 3 のように、先に出版された内容と重複していない場合は、別の本として扱った。

⑥ STC 番号

STC の第 2 版に拠る。

⑦ 所蔵場所

カタログ利用者の便宜のため、調査した書物が所蔵されている図書館名と、蔵書記号を記載した。図書館名の略語は STC の第 2 版に拠った。

⑧ 印刷者・出版社名

記載は印刷者、出版者の順である。つづりは STC のスペリングを採用した。出版地はことわりのない限り、ロンドンである。

⑨ 表紙の転写

表紙を転写するにあたっては Philip Gaskell

の *A New Introduction to Bibliography* (Oxford: Clarendon, 1972, 1985) で述べられている翻刻の規則にのっとって、可能な限り実物に忠実に移した。表紙に印刷されている出版事項も題名と共にオリジナルのつづりと書体で記載した。そのほか扉の飾りや枠などできるだけ詳しく記述してある。

⑩ 書籍の構造式

書物の構造を示すために、フォーマット及び照合を記載した。フォーマットは 4° , 8° のように数字で記載し、サイズと折り丁を記載した。構造式には落丁や変則的な折り丁も記載してある。折り記号が欠けており、それが何かが明らかに推測できる場合はイタリックで記載して示した。そのため紛らわしさを避けるため、¶ や ¶ のような印刷記号は原本でイタリックで印字されていた場合でも、本カタログではローマ字体で記載してある。ページ数や折り丁の印字の間違いも記載したが、10 箇所以上の間違いがある場合は 'irregularly misprinting' あるいは 'irregularly signed' と表記してある。

⑪ 書籍出版組合の登録

Edward Arber の *A Transcript of the Registers of the Company of Stationers of London: 1554-1640. A.D.*, 5 vols (London: Privately printed, 1875-94) に拠って、記載した。

⑫ 書物の内容

書物の内容については折り丁をつけて、簡単に記載してある。詳細の程度は作品によって多少異なる。一貫性よりも、文化交流の観点から見た各書物の重要性に鑑みて判断した。つづりに関しては、極力正確を期したが、表紙の転写とは異なり、書体などは統一した。しかし本書の記述は Gaskell より詳細に及んでいるため、原文からの引用は鉤括弧で区別している。

⑬ 書物のサイズ

研究者が調査した書物の紙葉の大きさは cm で縦×横で記載してある。当時は、1 冊ごとに、端を切りそろえるため、本によってサイズが異なることを念頭に置く必要がある。

⑭ 注釈

各書物に以下の注釈をつけた。

- 出版情報を中心とした該当書物の簡単な説明。
- Wolfe との関係: Wolfe が該当書籍の出版に際してどのような役割をになったかを説明
- 献呈、推薦、編集、翻訳など該当書籍を出版するあたって関与が認められる人物についての説明
- 該当書籍の後の版に関する情報について説明してある。刷に関しては、簡単に言及

- はしてあるが、版と同等には扱っていない。
- e. 該当書籍についてのその他の情報を記載した。各部署ごとに用いられている書体、該当書籍の所有者など、できるだけ詳しく記述してある。

(3) カタログ作成にあつての留意事項

書誌的記述では、STC 及び ESTC を十分に活用し、正確を期した。従って全ての版に STC 番号をつけてある。STC と ESTC の記載が異なる場合には、断りのない限り ESTC を優先させた。更に最新の情報を組み入れるため、ESTC On Line も参照した。同様の理由で、Grove Music, ODNB On Line, 英国の大学図書館総合目録 Copac, Censimento nazionale delle edizioni italiane del XVI secolo など、その他のデータベースも参照した。

カタログ作成に当たっては EEBO やマイクロフィルム (UMI) などの代用品も用いたが、可能な限り現物に当たって調査することを重視した。幸いなことに大英図書館には Wolfe が関わった書物の多くが所蔵されているので、複数の図書館に所蔵されている場合は、大英図書館の書物を本カタログの基本図書とした。正確さと読者の便宜を図るため、所蔵図書館の図書記号も記載してある。調査を通じて痛感したのは、情報技術の進歩にもかかわらず、現段階では技術は未だ現物の書物に取って代わるには至っていない。印刷や製本過程に時折発生する紙葉の誤挿入などはやはり人の手で処理せざるを得ない。更に実際に現物を調べることで、手書きの書き込み、出版者の意匠標章、サイズ、紙質、装丁、活字などについて多くの情報を得ることが出来た。

情報技術の社会では視覚効果が大切な前提条件となる。そのため本カタログでは、読者の理解の助けとなるような視覚補助資料を使用している。この種のカタログは読者が頻繁に参照することを最優先にして作成すべきなので、読者が利用しやすいカタログ作りを心がけた。即ち、グラフや沢山の情報を盛り込んだ表、表紙の画像や詳しいインデックスを付け加えた。これらの特徴とその意義について以下に記す。可能な限りさまざまな角度から、利用者が本カタログの本体にアプローチできるよう配慮した。

① グラフ 1.1 Wolfe の出版物

本グラフは Elizabeth 朝の 1560 年から 1601 年の 42 年間に Wolfe が手がけた書物の出版総図である。Elizabeth I のほぼ全治世に渡って活動した Wolfe の仕事 474 冊が年代順にどのように分布しているかを視覚的に示したグラフである。文学批評の世界では長い間科学的あるいは数学的な道具をその分析に用いることに不審感を抱くことが多かった。75 年以上も前に Caroline F.E. Spurgeon が *Shakespeare's Imagery and*

What It Tells Us (Cambridge: Cambridge University Press, 1935) において七つのグラフをカラーで用いたが、画期的な著作にもかかわらず、後に続いてグラフを積極的に活用するものはいなかった。近年、コンピュータ技術の躍進と共に視覚に訴える例示の有効性が文学研究においても再認識されるようになったが、それでもまだ控えめである。確かに文学を考えるにあたって、科学的、数学的手法を用いることで大切なものを失うという危険が伴うことも事実である。しかし、コンピュータ無しでは済まされない 21 世紀にあつては、この 2 つの思考形態は互いに近づきつつあるように思える。

グラフは個と全体の関係を示すのに、また時間の経過においてその関係を捉えるのに効果的である。上述したように、本カタログでは書物をジャンルによって大きく 2 つに、そして更に 9 つに小さく分類した。Wolfe の出版活動は、当時の人々の関心の広さを反映して多岐にわたっていることが分かる。

② 表 1.1 Wolfe の出版活動 1560-1601

この表は後に続く書誌学的記述のダイジェスト版であり、上述のデータベースである。

③ 'McKerrow' 又は 'McKerrow and Ferguson' に掲載されていない仕切りや意匠標章が用いられている表紙

本カタログで扱った書物の内 Ronald B. McKerrow の *Printers' Devices in England and Scotland* (London: The Bibliographical Society, 1913) にも、Ronald B. McKerrow and F.S. Ferguson の *Title Borders Used in England and Scotland 1485-1640* (London: Bibliographical Society, 1932) にも掲載されていない表紙をファクシミリで収録してある。これらの意匠を言葉では説明できないからである。これらの表紙は本体の書誌学的記述を視覚的に補填している。

④ ジャンル別 Wolfe の出版物

グラフ 1.1 をジャンル別に分けたグラフで、Wolfe が関わった書籍全体の中でそれぞれのジャンルがどのような位置を占め、また出版数がどのように変化していったかを視覚的に捉える。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 0 件)

[学会発表] (計 4 件)

富田爽子、「イタリアとの邂逅」日本シェイクスピア学会 2009 年 10 月 3 日 筑波大学

Soko Tomita, 'In search for Englishness' British

Shakespeare Association, London Conference,
2009.9.11, London 大学

Soko Tomita, 'An Early Encounter with Italy',
English Department Seminar, 2009.8.19, Exeter
大学

Soko Tomita, 'England's Encounter with Italian
Culture during the Reign of Elizabeth I'第10回
北方工業大学「との学術交流シンポジウムに
於ける特別講演 2008年11月6日 拓殖大学

[図書](計1件)

Soko Tomita, *A Bibliographical Catalogue of
Italian Books Printed in England 1558-1603*
(Ashgate, 2009) 628 pages

6. 研究組織

(1) 研究代表者

富田 爽子(TOMITA SOKO)

拓殖大学・工学部・教授

研究者番号:30197925

(2) 研究分担者

水野 晶子(MIZUNO AKIKO)

拓殖大学・国際学部・教授

研究者番号:60384707